

【ふるさと会瀬】から 郷土研究 その2

会瀬小の日立郷土研究の一分野として「郷土の人物」があるが市内企業関係の人物以外に会瀬から漁師二名が挙げられている。
会瀬漁夫の意気

1 長介の義侠 会瀬に長介という水泳の達人な義侠に富んだ漁夫が村でも評判であった。弘化4年(1847年)6月17日多くの仲間と漁に出たが暴風雨に遭い舟は転覆し荒海に投げ出された。長介は激浪と闘いながら陸に向かって泳いでいたが波の合間に溺死寸前の村の少年を見つけた。何とか助けたいと長介は少年の「ふんどし」をつかんで抱き上げ片手で泳いだ。しかし時間がたつにつれて手も疲れ力も弱まってきたが少年を放さず、ついには「ふんどし」を口にくわえて泳ぎやつの思いで陸にたどり着いた。

この時の暴風雨で難船し溺死したものが会瀬で44人、河原子で40人、川尻で90余人であったといふからひどい嵐であったことがわかる。会瀬の村人は長介の義侠に涙を流して感激し、その篤行をほめたたえたという。

注 新修日立市史に「弘化4年6月かつお漁に出た漁船が遭難し、河原子で41人、会瀬で44人、川尻では90余人が死亡」と記されている。

2 忠五郎の勇氣

文化13年(1816年)のころから会瀬の沖合に異国船が現れることが漁師の間に伝えられた。イギリスの捕鯨船であったが当時の漁師たちはその正体を知らず、ただ恐れをなす状態だった。

文政6年(1823年)かつお漁に出た漁師たちは会瀬沖合で異国船と遭遇した。会瀬村の柴田傳左衛門支配下の忠五郎は異国船の様子を見届けようと単身で舟を漕ぎ異国船に横付けし乗船した。船長室に案内され酒食のごちそうを受け帰った。次の日、忠五郎は手土産に釣り上げたかつおを持って再び異国船を訪れた。外国人は土産のかつおを身振り手振りで毒であると語った。彼らはクジラの有益性を語り、捕鯨の方法を教えようとした。忠五郎は3日ほど滞在し捕鯨の様子を見学し会瀬に帰った。事情を知った漁師たちは相次いで異国船を訪れもてなされた。異国人は恐ろしくなく、かえって親しみを持ったという。

注 この文章は日立市史にも掲載されているが、それによると忠五郎以後、会瀬および付近の漁夫は異国船上船し所持品と先方の品と交換して帰った。このことが役人の耳に入り厳重な取り調べを受けた結果、漁夫300人が召捕えられ、交換品は没収され漁夫一同は出漁禁止の厳罰を受けた。

注 文政8年(1825年)幕府は異国船打ち払い令を出す。天保7年(1836年)初崎に大砲場設置



天気に恵まれたスターウォッチング



小平記念館・創業小屋見学社員食堂で昼食

おおせ元気っ子体験村開催

日立市の地域わんぱく隊事業宿泊体験「おおせ元気っ子体験村」会瀬青少年の家で、育成会と共催で7月20日(4年生)6年生は2泊3日、3年生は1泊2日92名が参加して開催。学年別のバンダナで活動。原電東海テラパーク、県警、県庁など学校でも家庭でも体験できない盛りだくさんのプログラムだけがもたなく無事終了。

会瀬小学校からのお知らせ

日立市立会瀬小学校

創立75周年記念事業では、多額のご協賛をいただき、ありがとうございました。おかげさまで、学校の環境がさらに整い、子供たちの教材も充実させることができました。

併せて、今回、学校施設(正門・駐車場入り口)の看板、玄関の表示等、学校が希望したものを設置していただくことができましたので、ご報告いたします。ご来校の機会に、ご覧いただければ幸いに存じます。この紙面をお借りいたしまして、改めまして会瀬小学校校友会の皆さまと地域の皆さまに御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。



写真1 初めて来校されるお客様には、職員室及び玄関の場所がわかりづらいとの声がありました。来客用玄関に「ようこそ会瀬小へ Welcome to Oose Elementary School」の表示をしました。駐車場から広場に進むとさわやかに迎えの文字が見えます。

写真



写真2



創立50周年記念事業で設置された本校卒業生 田中信太郎「喜望峰」の銘板を設置。

写真3



写真4

会瀬の校舎は、来客用入口、児童昇降口、地域交流棟入り口があります。地域交流棟入り口の表示をしました。これで選挙や地域の集まりなどで迷わなくなります。



子供たちが考え命名した「スカイテラス」「オーシャンテラス」の表示を設置しました。玄関広場から眺められます。テラスからの会瀬の海、眺めは抜群です。

写真5

車での来校者の中には、正門まで進んでしまってから、バックして駐車場にたどり着く方がいらっしゃいましたので、この問題点を解消するよう立派な看板を設置させていただきました。

左奥：正門と二宮金次郎像
右へ曲がり：駐車場と会瀬幼稚園駐車場

